



校訓

なかよく かしく たくましく

ちがいを豊かさに 自分に夢と自信を

令和5年12月 6日 第16号 文責 梶原 圭一



自他の人権を大切にする心を育てる実践を通して

11月22日(水)に、菊陽町小中学校全員研修会が行われ、町内すべての小学校の先生方が集まり、本校の人権教育に関する授業を参観されました。本校の学校経営は、「人権教育を根底に据えた教育活動の推進」を基盤としています。本校職員は、自らの人権意識を問い直す研修を実施したり、校外で行われる様々な研修等に参加したりしながら、部落差別(同和問題)をはじめとする様々な人権問題についての基本的認識を深め、すべての教育活動で人権教育を推進できるよう指導力の向上に努めています。人権学習は、その中心的な実践であり、授業づくりに力を入れてきています。今回の公開授業に向けても、子どもの実態を考えながら、夏休み期間中から学年部ごとに題材について検討を重ねてきました。

低学年部は、教材での学習を通して、強い者にこびたり、弱い者に威張ったりすることは差別であるということに気づくとともに、自分を大切にすることはもちろん、すべての友達の人格を尊重していくことの大切さを考える授業を計画しました。

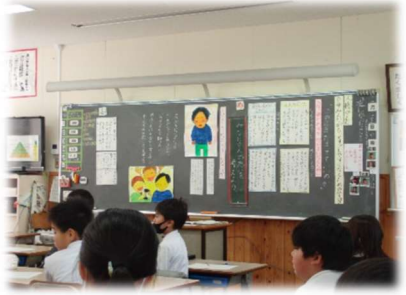
中学年部は、教材の内容を基にしながら、「差別をなくしていくひとり」として行動する意味を考える授業づくりを行いました。また、自分の中には、他者への決めつけた見方があるということに気づき、身近に起こる出来事を多面的・多角的な見方で見ることの大切さを考えました。

高学年部は、教材での学習を通して、家族とのつながり、助け合い、支え合いをする生き方や、人に対するあたたかさ、頑張りを学びました。さらに、自分のくらしを見つめ、行動することの大切さを考えていきました。

今回の公開授業研究会で助言をいただいた講師の方々、そして参加していただいた町内の先生方から、本校の実践について様々な角度からご意見をいただきました。これらのご意見を大切にしながら、本校の人権教育がさらに充実するよう、先生方全員で話し合い、今後も実践を積み重ねていきます。

12月2日(土)の「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす 第39回菊陽町人権子ども集会」では、本校の6年生と人権委員会の子どもたちが中心となり、本校で行っている多文化共生の取組や人権学習や出会いから学んだことなどを、ステージ上で堂々と発表してくれました。当日参加されていた地域の方から、「武蔵ヶ丘小の発表は、よかったですよ。校長先生から子どもたちに伝えてください。」という、うれしいご意見をいただきました。参加した子どもたちにとっては、他校の実践発表にも学びながら、武蔵ヶ丘小の、そして自分の見方や考え方を振り返ることができる、とても有意義な時間となりました。

自らの偏った見方や考え方を振り返る多くの学びの機会を大切にしながら、誰もが安心して生活できる学校、そして社会づくりを目指し、子どもたちと共に学びを進めていきたいと思います。



インフルエンザやアデノウイルス感染症等の流行、急な気温の変化により、体調を崩す子どもたちが大変増え、とても心配しています。改めて一人ひとりが感染防止対策を徹底し、元気に後期前半のまとめの時期を過ごしてほしいと願っています。みんなで頑張りましょう！

<今後の主な予定>

12月11日(月)	薬物乱用防止教室(6年生)	12月18日(月)	タイムランチャレンジ
12月14日(木)	水俣に学ぶ肥後っ子教室(5年生)	12月22日(木)	後期前半終了日